

野間清治顕彰会活動方針

「野間清治顕彰会」は、雑誌王として知られる講談社の創業者である野間清治の偉業を尊び、桐生出身の先輩を誇りとする市民の共感と賛意を得ながら、顕彰を通じて広く文化活動を推進するための、熱意ある人達の集まりであります。

野間清治は、明治十一年山田郡新宿村で生まれ、群馬師範学校を卒業後、桐生で小学校教員、沖縄県視学、東京帝国大学主席書記などを経て、大日本雄弁会を設立。

明治四十四年講談社を設立し、雑誌「少年倶楽部」「婦人倶楽部」「少女倶楽部」等を創刊し、大正十四年には「キング」が爆発的な支持を受け、野間清治は【雑誌王】とも称された。

昭和五年、報知新聞社社長に、昭和十一年キングレコードを創設。大活躍のうちに昭和十三年、五十九歳で生涯を閉じました。

桐生市立図書館開設時には、建築費を寄附、昭和五十四年からは創業者野間清治の意思を受け継いで、講談社の出版物が「野間文庫」として寄贈され続けております。

本会は、野間清治の精神と業績を後世に伝えるとともに、読書推進賞を設置し、読書の普及活動を推進するとともに、地域に根付いた野間清治の顕彰活動を推進し、顕彰碑と生誕の碑、二つの記念碑の顕彰活動の長く続く基盤を作り、地域文化活動を推進する。

- 1 講談社創業者野間清治記念館事業 昨年は野間清治記念館道場の可能性を追求した。道場再建を望む人たちや剣道界、県内関係機関などとも接触し、また、資材の状況調査も実施した。その結果、厳しい状況であったが、建設主体が出来れば建設費確保の運動を展開、推進するところまで検討したが、建設主体を得る見通しが難しく、加えて資材そのものが経年により腐食などにより、会としては、復元は断念せざるを得ない状況となった。

こうした背景の中、当面、桐生市より借用している元新宿保育園の2教室分を生かした地域に溶け込んだ施設展開と運営を実施する。
- 2 学校を中心とした野間文庫読書推進 読書啓発は野間清治の遺志であり、読書は人間形成に欠かせない要素であり、野間清治読書推進賞の継続を含め、PTA・地域をあげて啓発に取り組む。
- 3 野間清治並びに桐生の先覚者の顕彰と啓蒙 桐生が生んだ雑誌王野間清治の出版文化、読書啓発思想を普及するとともに、顕彰会だよりを発行する。
- 4 野間清治杯(剣道)の研究 市内外の中学生を対象とした剣道大会に(仮称)野間清治顕彰杯を考えるとともに桐生剣道界とも連動しながら、全国の剣道界とのつながりを構築し、子供の剣道精神を育成し、あわせて地域の活性化を目指すことを調査・研究する。
- 5 野間清治生誕135周年事業(2013年)の検討 野間清治生誕135年を記念し、イベントを開催する(2013年)。また野間清治の甥で、日本剣道史に足跡を残し、アメリカに渡り、フェンシング界において活躍した森寅雄の生誕100年を迎えるにあたり(2014年)、その功績をたたえ、顕彰活動を行う。